

エゾアワビ（地方名：アワビ）



生態

- 年齢・成長：制限殻長（95mm）を超えるのは、放流後4年、天然貝では5歳です。
- 成熟・産卵：福島県における産卵期は8～11月です。
- 分布・移動：茨城県以北の太平洋岸海域と新潟県以北の日本海側海域、水深10m以浅の岩礁域に分布します。
- 食性：海藻類を摂餌します。

漁獲の動向

平成22年におけるアワビの漁獲量は24トン、漁獲金額は1.8億円でした。アワビ漁獲量は昭和40年代には年間100トンを超えることもありましたが、昭和50年代以降は20～40トンで推移しています。福島県では多くの地先で漁業者が一日に漁獲できる個体数が制限されています。このため、年間漁獲量は出漁日数と漁業者数によって変動しています。

県外への出荷が多いため、単価は全国の需給状況に強く影響されます。いわき地区と相双地区における平成22年の年間平均単価はそれぞれ7,727円/kg、6,633円/kgでした。

震災後、平成26年5月から試験操業が開始しました。平成26年から令和4年の漁獲量は0.2～2トンで推移しています。

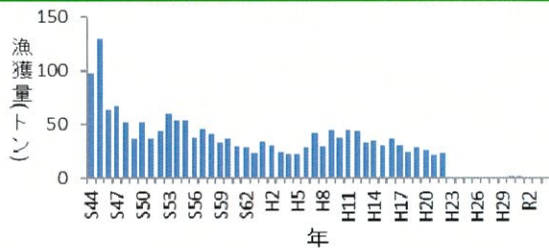


図1-1 アワビの漁獲量の推移

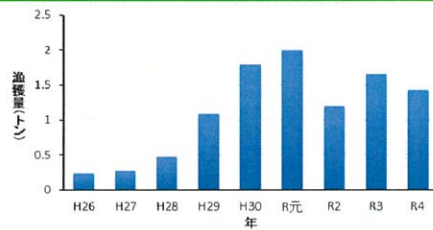


図1-2 アワビの漁獲量の推移(H26～)

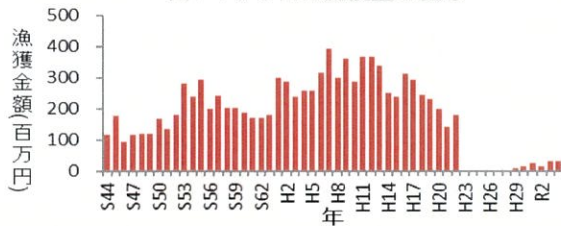


図2-1 アワビの漁獲金額の推移※

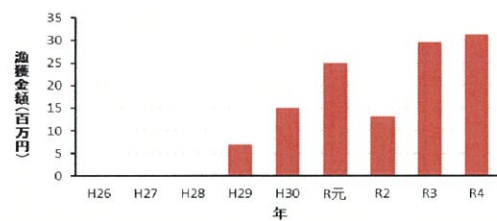


図2-2 アワビの漁獲金額の推移(H26～)

※ H26～H28は相対取引のため、データなし

資源の状態

○いわき地区の下神白地区を対象としたVPAによる資源解析では、震災前の平成12～22年の期間において資源量は減少傾向だったと推定されています。

○震災後は規模を縮小した操業を行っているため、漁獲圧の低下による漁獲物の大型化が確認されています。

○震災後中断していた人工種苗の放流数が平成28年に再開したが、放流数は震災前の10分の1程度の5～7万個程度に減少しているため、漁獲物に占める人工種苗の割合が震災前と比較して低下しています。

資源の水準：－

資源の動向：－

現在実施されている管理策

福島県漁業調整規則により漁期は5～9月、採捕殻長は95mmを超えるものに制限されています。多くの地先で一人一日あたりの漁獲個数を自主規制しています。

今後考えられる管理策

震災前は漁獲物のおよそ半分を放流個体が占めていたことから、震災により減少した種苗放流数を元に戻すことが重要です。

また、漁獲圧の低下により資源が大型化していることから、余命が短かく単価の高い大型個体から漁獲することで、効率的に資源を利用できます。